

ひのさきこどもえんは、一人ひとりが「その人らしく」できる場所でありたいと考えています。こども 保護者の皆様 職員 園に関わる全ての人それぞれの尊厳が守られ、一人一人がその人らしく集える場所をつくりたいと思っています。子どもをまんやかにして、「子どもにとってどうなのか」と職員みんなで考え合っていけるこどもえんをめざします。地域に開かれたあたたかい場所・・・地域の人が気軽に立ち寄れ、こどもと保護者と保育者の笑顔と笑い声が輝く場所。「ひのさきこどもえん」の命名にはそんな願いが込められています。

明睦学園の HP を開けると 「共に育ちましょう」という文章が流れています。

そこをクリックすると、明睦学園の名誉理事長藤城民雄のメッセージが出てきます。その中に「ひのさきこどもえん」で大切にしたいことが込められています。

まず一つ目 子どもたちはたくさんの「あそび」や「体験」すなわち「活動」を通して多くのことを学び育っていきます。

この内容の通りたくさんの「遊び」「体験」ができるように環境づくりをします。

土と水、さらには 絵の具を使って全身を使って表現すること全身を使うことは、東郷町の自然を満喫できるようにいろいろなところに出向いて子ども自身が全身でその自然を感じることができるようにしたいと考えています。見て、感じて、触って、調べて・・・、五感を使って理解する。地域のいろいろな方と園外で触れ合うだけでなく、地域に開かれたこどもえんでありたいと思っています。

二つ目 子どもは理論で覚えるのではなく、「活動を通じた感動」で学びます。だからこそ子どもたちには「育つ環境」を与えることが大切です。

「環境による保育」ということを重視していきます。モノやコトといった物的な環境を準備すればよいということではありません。そこには必ず人が存在します。人的環境と言いますが、モノやコトにかかわる人の存在は子どもに大きな影響を及ぼします。まさに「背中を見て育つ」です。互いに学び合える環境を共に作り合えるようにすることも大切な環境づくりです

三つ目 幼児期は感性を育む最高の時期です。脳の 70%ができるこの時期に豊かな感性の基礎をしっかりと吸収させなくてはなりません。その感性の育ちが豊かな表現力と人間力を身に付けていくのです。

このことの通り、感性の育ちは豊かな表現力と人間力を身につけさせます。

もともと子どもは感性を持ち備えて誕生してきます。「自ら育つものを育たせようとする育ての心」幼児教育の父 と言われる「倉橋惣三」は、子どもが持っている力を精一杯発揮して自ら育っていけるようにと願い、「育ての心」という著書を私たち保育者に遺してくれました。この「育ての心」を大切に私たち職員一同互いに力を合わせ一人一人の子どもたちのころもちに寄り添い、保護者の方々と共に子どもたちの健全な成長のために力を尽くしていこうと思います。